

風洞内における境界層の発生に関する二、三の基礎的研究

京都大学 正員 小西 一郎 京都大学

〃 〃 松本 勝 阪神高速道路公団

〃 学員 ○酒井基一郎 京都大学

正員 白石成人

〃 北沢正彦

竹居重男

多 1 実験概要

本実験は、つきの3種類のタイプについてそのShear flow特性を調べた。小角材を配列したもの（図1に示すA～Eのタイプを風洞床面に直接設定して測定した。）(2)円錐を配列したもの（図3に示すNEW～NCのタイプを高さ50cmの原組を作成し、その上に設置して測定を行った。）(3)アルミ平板（図5に示すよろアルミ平板・厚さ1mm・間隔7cm。それを鉛直にして平行に10枚並べたものを同じ床面に設置して測定した。）上述の3種類について風速の鉛直分布および風方向の乱れの強さを測定した。風速の鉛直分布は、ベキ法則の式 $\bar{U} = \bar{U}_0 (z/z_0)^{\alpha}$ の指数αで定まるものであるから、風速の分布形を比較するためには、両対数グラフにプロットし、乱れの強さについては、測定値を風速 \bar{U} に割り、た値 $\sigma_{\bar{U}}/\bar{U}$ を%で求め片対数紙にアロットした。なお、 \bar{U}_0 は(chms)値を、 \bar{U} は平均風速を熱線風速計で読み取った。

多 2 実験結果および考察

(i) 角材を配列したものの

図1のA～Eのタイプの5種類について風速と乱れの強さを測定した。ここではタイプEの風速鉛直分布と乱れの強さを図2に示したが、これよりわかるように一様な風速分布は求められなかつた。

(ii) 円錐を配列したものの

図3のNEW～NCの4種類のタイプについて実験を行いタイプNCの風速分布と乱れの強さを図4に示した。この実験においては、タイプNEW～NBまでは風速の変動が非常に大きく、乱れの強さも自然風にくらべて大きいものであるが、タイプNCの風速分布は図4がわかるように、高さ30cm～7mで、右側のベキ法則に一致する風速分布を持ち、乱れの強さは16%前後の値を示している。これは都市郊外の風に類似していることがわかる。

(iii) アルミ平板によるものの

図6に示すように、ベキ指数αは設定風速が8%のときに1.83が得られたが、風速を変化させると、2%で1.74、5%で1.65のそれらしいの値が得られる。この場合には各々のベキ法則に従う速度分布を持つことがあつた。また、乱れの強さは11%で、高さ10cmまでは徐々に減少して、それ以上の高さにおけるものは急激に減少し、20cmで約1%となり10cmまで一定である。この境界層は風速の鉛直分布形・乱れの強さ共に海上における境界層とよく類似していると言える。

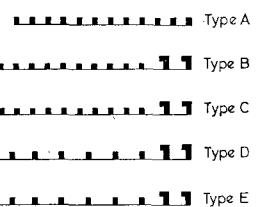


Fig.1 Shear Flow Generators (case1)

風洞内で乱流境界層を発生させる方法と1)用いた角材の配列による方法、2)は、設定風速による風速の鉛直分布形の変化が著しく、境界層内のある高さたかいで分布性状が著しく変化するところがあり、明らかなる角折れ現象が見られた。円錐についても同様な角折れ現象が見られるが、乱れの強さが遙かに大きさじめ、たゞじる。都市郊外の風のエミレーティンと同じ用いた。アルミニウム平板境界層発生装置による乱流境界層のエミレーティンは、風速の鉛直分布について所定のべき法則に従う。また、設定風速の鉛直分布性状の変化を少なくてしかれの強さも10%とすへ一致している。

以上(1)(2)(3)の3者に共通してあることであるが、測定を行ったのは、風速の鉛直分布と風方向の乱れの強さの二項目であった。乱流境界層を特徴づける風と直角方向の乱れの強さ、各方向の乱れの成分間の相関、乱れの空間相関、乱れのパワースペクトルなど重要な要素であり、これらが乱流境界層の特性を把握するには、今後、この方向の研究が必要となる。

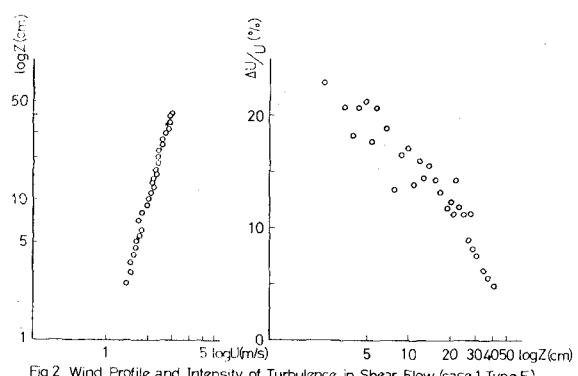


Fig. 2 Wind Profile and Intensity of Turbulence in Shear Flow (case 1 Type E)

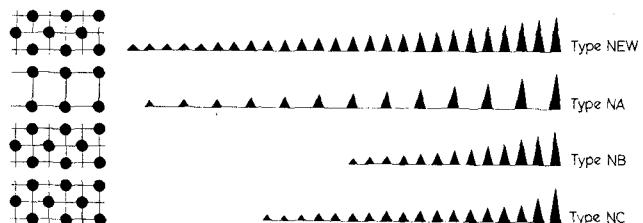


Fig. 3 Shear Flow Generators (case 2)

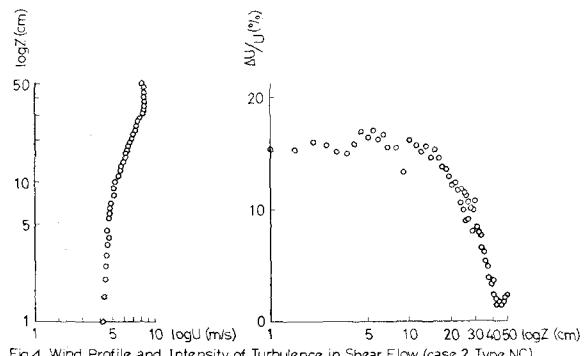


Fig. 4 Wind Profile and Intensity of Turbulence in Shear Flow (case 2 Type NC)

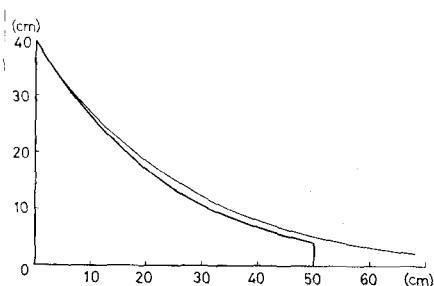


Fig. 5 Shear Flow Generating Plate (case 3)

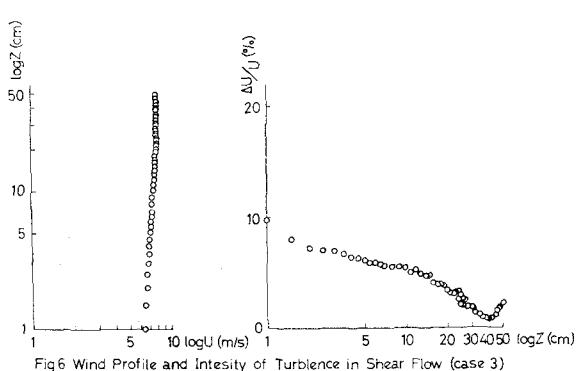


Fig. 6 Wind Profile and Intensity of Turbulence in Shear Flow (case 3)